



Information_9



防災のおはなし

災害はある日突然やってきます。いざというときに自分自身と、大切な動物たちの命を守るためには日頃からの備えが重要です。

災害時に起こりうる事態

被災した動物たちには、このようなことが起こると予測されます

- 火傷やケガなどの負傷
- 迷子
- 飼主が飼育できなくなる、または飼主がいなくなる
- 避難先でのトラブル（無駄吠え、ケンカ、衛生問題など）
- 飼主と離れることによる不安やストレスからの体調不良
など

備える

地震や台風、豪雨を防ぐことはできませんが、それによって起こる「災害」は最小限に減らすことができます。動物たちの防災にはどのようなことが必要なのでしょう？



①しつけ

「おすすめ」や「まて」など基本的なしつけは必要です。不特定多数の人たちと過ごす避難所では、無駄吠えをしないしつけも重要になります。

また避難時や避難所など、ケージやキャリー内で過ごす時間が増えます。
普段から慣れさせておきましょう。



②安全な飼育場所

寝床や生活スペースは、家具や窓ガラスのそばは避けましょう。屋外の小屋は、落下物や倒壊の可能性のあるブロック塀からは離して設置し、定期的な点検と補修を忘れずにしましょう。

③身元が判るものを付ける

名札や鑑札を付けておきましょう。万が一、首輪が外れてもマイクロチップを入れておくと、より飼主の元へ戻りやすくなります。



④健康管理

不特定多数の動物が集まり、衛生管理も難しい避難先では感染症が広がりやすい環境になります。予防接種と合わせて、ノミ・マダニも予防しておきましょう。

⑤「愛犬手帳」「愛猫手帳」をつけよう

飼主の情報や、動物の情報（生年月日、病歴、予防歴、鑑札番号、かかりつけの病院、写真、普段食べているフード など）があると迷子になった動物を探す時や、世話を他の人に頼まなければならなくなった時に役立ちます。



スタッフより



動物たちは災害の恐怖や不安でパニックを起こすと、普段と全く違う行動をすることがあります。また救援物資も届くまでには時間がかかる上、十分量手に入るとは限りません。大切な家族の生活を日頃からの心構えと備えで、守ってあげましょう。

